

普通のQRから、未来のQRへ

4つの導入シーンでわかる、次世代QRコードの活用法





普通のQRで 足りてる？

世界では今、商品とWebを結び、業務効率化・サステナビリティ対応、
高度な消費者エンゲージメントに活用できる
次世代QRコード*の導入が始まっています。

本リーフレットでは、次世代QRコードがもたらす
「変えなくていいのに変わる」デジタル運用の革新をご紹介します。
未来に繋がるQRコードの新しい可能性をぜひ、のぞいてみてください。

*次世代QRコードは正式にはQRコード（GS1 Digital Link URI方式）と呼ばれ、データをGS1 Digital Link URIシンタックス形式でQRコードに表現したものです。標準化動向の詳細については、<https://www.gs1jp.org/standard/industry/2d-in-retail/rules.html>をご確認ください。

そもそも QRコードって？

現在一般的に使われているQRコードは、シンボルの中に
固定のウェブページのURLを直接埋め込んでます。

読み取ったスマートフォンはそのURLに直接アクセスし、
決められた1つのWebページを表示します。



一般的なQRコードは、特定のWebページにすぐアクセスできる
便利な仕組みです。ただし、そのQRコードができるのは「決
まった1つのページを開くこと」だけ。

たとえば、表示する情報をダイナミックに変えたり、個別・複数の
の情報提供といった使い方はできません。

「URLを読むだけ」のシンプルな仕組みだからこそ、ビジネスでの
活用には限界があるのです。

いつものQRコード にデメリット？

リンク先の変更時は 再印刷が必要

一般的なQRコードには、固定されたURLしか埋め込めない
ため、Webページの変更やキャンペーンの終了などでリンク
先を変える場合、パッケージや販促物そのものを再印刷す
る必要があります。柔軟な運用が難しく、コストや手間が発
生します。

複数Webページは、 QRコードも複数

一般的なQRコードでは1つのコードにつき1つのリンク先しか
指定できないため、消費者を用途別（例：商品説明・レ
シビ・キャンペーンなど）に複数ページへ誘導したい場合は、
複数のQRを並べる必要があります。デザインやユーザビリ
ティに課題が残ります。

ロット別などの 情報提供はできない

印刷された一般的なQRコードはすべて同じURLを指すた
め、商品ごとに異なる情報（ロット番号や賞味期限、製造
日など）を提供することは困難です。個体ごとの管理や追
跡にも向きません。

POSレジでは 使えない

一般的なQRコードはPOSレジでのスキャンには対応して
おらず、商品識別にはJANシンボルが必要です。そのため、商
品パッケージにはJANコードとQRコードの両方を印刷する
必要があり、スペースやデザインの制約が生じます。

次世代QRコード で解決！

GS1標準の次世代QRコードを使えば、
これらのお困りを一気に解決。

業務効率化も、POSレジでの精算も、サステナビリティ対応も、
高度なカスタマーエクスペリエンスも
たった1つのQRコードで実現できてしまうのです。

リンク先を変更して も再印刷不要！

GS1標準のルールに沿ってQRコードを作成し、さまざまなリンク先にはリダイレクトに対応。印刷物を都度作り直す必要がありません。

1つのQRコードから 複数の情報を！

言語別・地域別・用途別など、消費者に合わせて動的に表示内容を変えることができます。1つのQRで多目的な訴求が可能です。

ロット番号や 賞味期限も書ける！

GS1のルールに基づき、ロット番号や賞味期限などの情報もQRコードに表現できるため、製品個別のトレーサビリティや在庫管理にも活用可能です。

将来的には POSでもつかえる！

POSレジでの商品識別にも利用できるため、将来的にはJANシンボルの代替としてパッケージの省スペース化にも貢献します。

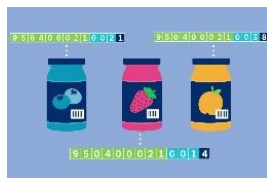
この解決のヒントは4つ

- 世界中で一意的に商品の識別ができる「**GTIN**」
- 様々な情報の種類を示す「**GS1アプリケーション識別子**」
- GTINなどを表現した「**構造化URL**」
- Webの「**リダイレクト機能**」

これらを組み合わせることにより**たった一度のスキャンから∞の可能性**が広がります！

なんでこんなこと できるの？

Global Trade Item Number の略称で、
商品をグローバルに唯一に識別する商品コード。
JANコードもこの一種です。



GS1 Digital Link標準を用いると、
構造化されたURLの中にGTINを書き表すことができます。
GTIN以外にも、GS1アプリケーション識別子を用いてロット番号などの様々な情報をURLに表現できます。GS1 Digital Linkの詳細は[こちら](#)から。

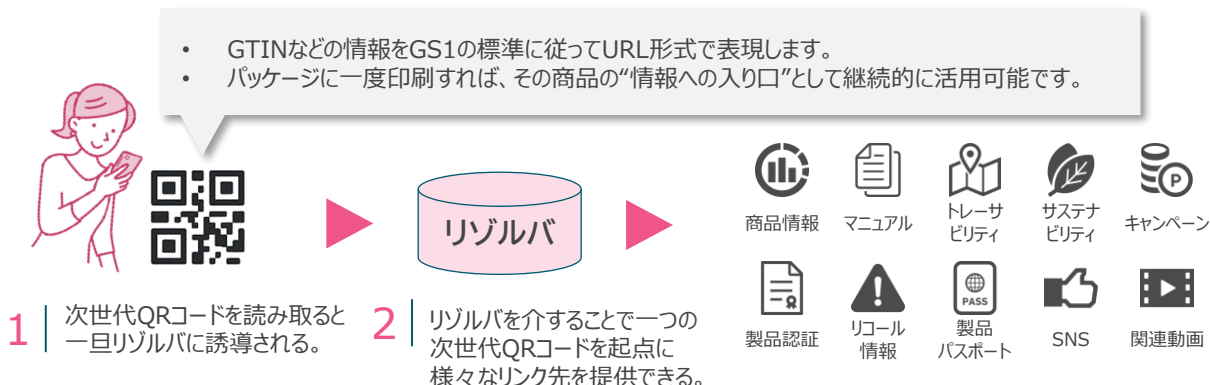
GS1標準のデータキャリアには欠かせない識別子で、
各種情報の種類を示す2～4桁の番号。
例えば「01」はGTIN、「10」はロット番号を表します。



アクセスしたURLから別のURLへ自動的に転送する仕組み。
GS1 Digital Linkの構造化URLから
各種サービスへはこのリダイレクト機能で対応します。
印刷物を都度作り直す必要がありません。

リダイレクトを担う「リゾルバ」

次世代QRコードの特徴を下支えする情報システムがリゾルバです。リゾルバは、技術的には広く一般に用いられているものだけで構成できるシンプルなシステムですが、これが介在することで次世代QRコードの機能性は飛躍的に高まります。



What's リゾルバ？

- リゾルバは商品ごとのGTINとリンク先の対応関係を保持しています。
- 消費者が次世代QRコードを読み取ると、その中に含まれるGTINに基づいて、さまざまなページへリゾルバが自動的に誘導します。
 - 1つの商品に複数のリンク先を対応させることも可能です。
 - ロット番号ごとなど、より細かな条件で誘導されるリンク先を切り替えることもできます。
 - リゾルバの設定を更新するだけで、同じ次世代QRコードから誘導されるリンク先を簡単に変更できます。

次世代QRコード導入方法



*Scene 2とScene 3は難易度を単純比較できるものではありません。各社の状況によって検討してください。

データ内容と読取方法については、下記の通り分類されます。

固定情報	スマホのカメラアプリ
商品ごとに設定され、変更しない情報。 例えばGTINなど。	QRコードの一般的な読取方法として認識されている、 スマホの標準カメラによる読取。追加アプリの開発は不要。
可変情報	専用アプリ
生産日時や産地など、同一商品でも変更の可能性がある 情報。例えば、製造日、賞味期限、ロット番号など。	消費者向けや業務用など、個別のニーズに特化したアプリの こと。各企業の自社開発と消費者のアプリダウンロードが必要。

Scene 1 固定情報を印刷×スマホのカメラアプリで読取り

最も手軽に始められる導入スタイルです。現在使っている一般的なQRコードのデータをGTINを含む**次世代QRコード**に置き換え、リゾルバを整えるだけでOK。スマホのカメラアプリで読み取ることで、商品情報ページやブランドサイト、キャンペーンページなど、その時々でアクセスしてほしいページにスムーズに誘導できます。スモールステップでのスタートにはここから。



サステナビリティ対応

- ・ 製品単位のサステナビリティ情報を提供。
- ・ 欧州アルコール表示規制への対応にも。
- ・ QRコード差替えによるパッケージロス削減。



マーケティング・CX

- ・ 商品情報やキャンペーン情報など、タイムリーで柔軟な運用が可能に。
- ・ スマホの言語設定に応じてWebの言語を自動切換え。



業務効率化

- ・ キャンペーン終了時も商品ラベルやパッケージ差替え不要。



ブランド保護・消費者安全

- ・ GTINを起点に、正規・最新の商品情報へスムーズに誘導。
- ・ 万が一の際も、Web上での迅速な情報提供が可能に。

Scene 2 固定情報を印刷×専用アプリで読取り

Scene 1と同じシンボルの読取に専用アプリを使うことで拡張性が高まります。商品情報だけでなく、クーポン・動画・アンケートなど、マーケティングやブランド体験を高める多様なコンテンツ展開が可能に。さらに、GTINが含まれているため、業務用アプリを介して、発注や棚卸といった実務作業にも対応できます。1つのシンボルでCXと業務の両方を支える、スマートな連携設計を目指すステップです。



サステナビリティ対応

- ・ リサイクル情報や原材料など、さまざまな情報をアプリでわかりやすく表示。



マーケティング・CX

- ・ 消費者の読取履歴や属性に応じて、個別の情報・クーポン配信が可能に。
- ・ 商品のアレルギー情報や環境配慮などを消費者のニーズに応じて情報提供するなど、多様な情報提供が可能に。



業務効率化

- ・ POSレジや基幹システムをGS1の次世代バーコードに対応することにより、JANシンボルの代替として商品識別が可能に。
- ・ GTINを活用した発注・検品作業もQRコードで可能に。



ブランド保護・消費者安全

- ・ GTINを起点とした正確な情報を消費者に応じて提供可能に。

Scene 3 可変情報を印字×スマホのカメラアプリで読取り

GTINに加えて、賞味期限やロット番号などの可変情報を印字し、スマホのカメラアプリでスキャンします。同じ商品でも、原産地別やロット別など、細かな情報発信が可能に。さらに、いざというときにはロット単位等でその製品の情報をリアルタイムで発信することも可能です。CXやマーケティング戦略の高度化に適したスタイルです。



サステナビリティ対応

- ・ 製造ロットや原材料ごとに異なるCO₂排出量など、個別レベルの環境情報を動的に提供。
- ・ 欧州デジタル・プロダクト・パスポート（DPP）など、今後の規制対応にも活用が期待される。



マーケティング・CX

- ・ 賞味期限やロットに応じた情報提示が可能。
- ・ 原産地の情報や商品ストーリーの発信など、ブランドイメージアップに。



業務効率化

- ・ キャンペーン終了時も商品ラベルやパッケージ差替え不要。



ブランド保護・消費者安全

- ・ シリアル番号が表現された次世代QRコードをスキャンすることで、正規品かどうかを消費者自身が確認可能。
- ・ 万が一の際も、Web上での迅速な情報提供が可能に。

Scene 4 可変情報を印字×専用アプリで読取り

最も高度な情報連携が可能になる方法です。GTINに加え、ロット番号・賞味期限などの可変データを印字し、専用アプリで読み取ります。個体ごとのトレーサビリティ、販促運動、回収時対応までをカバーし、現場・マーケティング・経営をつなぐデジタル運用の“最終形”ともいえるスタイルです。業務効率化、サステナビリティ対応、マーケティング、ブランド保護まで、あらゆる機能を、たったひとつのシンボルに。



サステナビリティ対応

- ・ 製造ロットや原材料ごとに異なるCO₂排出量など、個別レベルの環境情報を動的に提供。
- ・ リサイクル情報や原材料など、消費者の知りたい情報にピンポイントアクセス。



マーケティング・CX

- ・ QR読取履歴とPOSデータを統合し、「見た→買った→リピートした」までの行動を可視化。パーソナライズ施策の精度が高まり、CRM／販促戦略の高度化を実現。



業務効率化

- ・ 在庫・エリア・時間帯・賞味期限などの状況に応じて、リアルタイムで価格を最適化。手間をかけないダイナミックプライシングが可能に。
- ・ 期限切れ商品の販売阻止や、バーコードを活用した効率的な検品作業など、様々な業務効率化を1シンボルで実現可能に。



ブランド保護・消費者安全

- ・ シリアル番号が表現された次世代QRコードをスキャンすることで、正規品かどうかを消費者自身が確認可能。ブランド保護・安心提供・海外展開時のトラブル防止に。
- ・ ロットや賞味期限単位といった、高精度な購入履歴から、万が一の時もターゲットを絞った情報提供が可能に。

次世代QRコード 導入事例

世界各国では、次世代QRコードの導入が次々と行われています。対象商品も食料品からアパレル、日用品などさまざまです。全ての事例は2D in Retailの活用事例紹介ページをご覧ください。導入方法Scene 1～4の詳細はP.7-8をご確認ください。
www.gs1jp.org/standard/industry/2d-in-retail/casestudies.html

韓国 | 食品

次世代QRコードで実現する
“ラベルレス”ミネラルウォーター



ブラジル | パッケージリサイクル

次世代QRコードでペットボトル
1本ずつのリサイクル情報を可視化



オーストラリア | 食品

偽造品防止・ブランド保護のための
次世代QRコード活用



フランス | 消費財

グローバル企業が次世代QRコード
から商品情報提供を開始



スペイン | アパレル

業務効率化にEPC/RFID、
消費者用に次世代QRコード



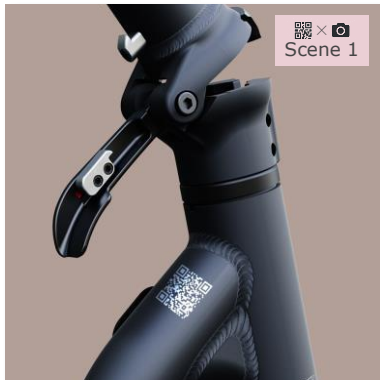
香港 | 食品

PB商品のサステナ情報見える化に
次世代QRコードを採用



フランス | スポーツ用品

スポーツメーカーが取扱説明書などの
共有に次世代QRコードを採用



オーストラリア | 食品

柑橘のトレーサビリティ情報提供を
次世代QRコードで



ブラジル | アパレル

リアルタイム在庫情報の可視化も
トレサビ情報も次世代QRコードで



参考資料・動画・ ツール・講座のご案内

GS1 Japanでは様々な情報提供を行っています。Webページでの情報収集や講座へのご参加をぜひご検討ください。導入の際には、シンボル作成ツールやGS1 Japan Scanアプリがサポートします。各ページへのアクセスは画像をクリック！

Web | 2D in Retail 紹介ページ



Web | GS1 Digital Link紹介ページ



Web | GS1 Digital Link Q&A



YouTube動画 | GS1 Digital Linkを使うとQRコードが進化する？



一般的なQRコードと次世代QRコードの違いを動画で紹介しています。

Webツール | 2D in Retail GS1二次元シンボル作成ツール



次世代QRコードの生成ツールです。そのほかにもGS1データマトリックスなどが生成できます*。

スマホアプリ | GS1 Japan Scan アプリ



次世代QRコードをはじめとした各種GS1標準バーコードのデータ構造をチェックできます**。

無料講座 | 次世代バーコード入門講座



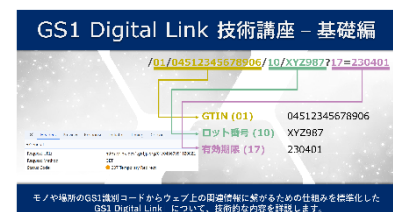
次世代バーコードについての概要や表示ルールの解説、導入事例を紹介しします。

無料講座 | GS1 Digital Link入門講座



初心者向けにGS1 Digital Link標準の狙いと概要、利用事例と更なる利用イメージ、それらの根底にある考え方を解説します。

有料講座 | GS1 Digital Link技術講座



GS1 Digital Link標準の内容を詳説し、同標準を活用した情報・サービス提供を実現するアプリ・システムを構築するための技術的な下地を形成します。

*本ツールで作成したシンボルの印字品質を保证するものではありません。
**本アプリはバーコードのデータフォーマットを簡易チェックするものであり、バーコードの表示サイズ、印刷品質等を検査するものではありません。

A woman with dark skin and short hair is smiling as she scans a QR code on a white product with her light blue smartphone. She is wearing a denim jacket over a striped shirt. The background is blurred, suggesting an outdoor market or shopping area.

One scan. Infinite possibilities.

あなたはこの次世代QRコードをどう使いますか？まずは消費者への情報提供？それとも人手不足解決の武器に？
私たちGS1 Japanはあなたの次の一步を強力に支援します。

GS1 Japanについて

GS1 Japan は、1972 年に流通情報システムの合理化・標準化のために設立された専門機関です。流通業とその関連業界のシステム化に不可欠な、GTINをはじめとした各種GS1識別コード、バーコードやEPC/RFIDなどの自動認識技術、EDI（電子データ交換）、データベースなどの標準化と普及を推進しています。また、国際標準の流通システムを推進する機関であるGS1に日本の代表機関として加盟しています。

2D in Retailについて

高度な消費者エンゲージメントの実践や業務効率化などのために、POSレジで読み取る商品にGS1二次元シンボルを表示する活動「2D in Retail」が世界各国で活発になっています。GS1二次元シンボルは、GTINと合わせて複数の情報を表現することが可能で、次世代QRコードは2D in Retailの推奨シンボルとして広く活用が開始されています。

2D in Retailの概要や導入事例については、下記QRコードよりアクセスしてください。

本ガイドに関するお問い合わせ先

GS1 Japan
ソリューション第1部

E-mail: solution@gs1jp.org

www.gs1jp.org



「QRコード」はデンソーウェーブの登録商標です。